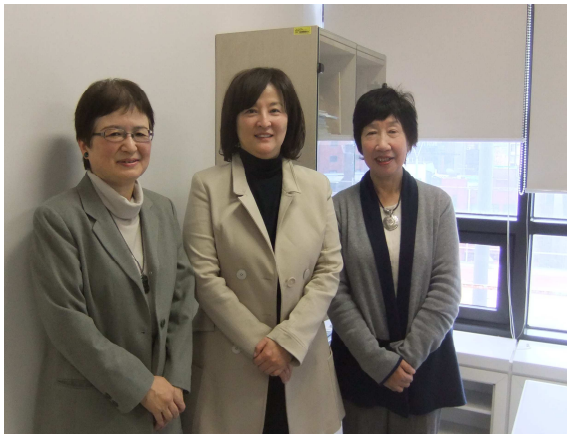
国際日本研究センター　海外大学・機関　調査表

訪問先	梨花女子大学
調査日時	2014 年 11 月 24 日 10：30～11：30
調査対象	通訳翻訳大学院　パク・ヘギョン（Park, Hae Kyung）先生
訪問目的	翻訳通訳大学院の状況調査
調査方法	項目に従ったインタビュー
調査結果	【機関の性格】 　学部には日本語専攻はないが、通訳翻訳大学院に韓日通訳専攻と韓日翻訳専攻がある 【日本にかかわるコース概要・開講科目について】 マスターコースは通訳専攻（9 名 2 クラス）、翻訳専攻（8，9 名）の定員で、実務中心。人気があり、レベルも高い 【上記のコースの運営・科目開講にかかる問題・努力】 韓国語と日本語どちらも教育し、また、様々な分野の専門知識も同時に習得する。グループ学習中心で密度の高い教育を行っている。 　帰国子女、日本人留学生も多い。（青山、慶応、早稲田、東女、明学、立教などの卒業生） 【上記のコース・科目にかかわる教員について】 　専任 2 名、兼任 3 名 　専任は通訳実務の専門家 【上記のコース・科目を履修した卒業生の進路について】 就職率 100%　インハウス通訳翻訳を行う正社員として一般企業に就職する学生が多い。その他、領事館大使館、政府機関、日本企業にも。 【まとめ】 　東京外語大を含め、日本の大学院には通訳翻訳を専門にするものがなく、日本に留学しても単位互換ができない。東京外大に是非韓日の通訳翻訳大学院をつくってほしい。 　その他、英語だけで教育を行う国際大学院に韓国学専攻がある。また、来年度から学部にグローバル韓国学専攻ができる。



パク・ヘギョン先生

大学風景

国際日本研究センター　海外大学・機関　調査表

訪問先	梨花女子大学校（学部）
調査日時	2014 年 11 月 24 日 19：00～19：30
調査対象	梨花女子大学人文大学人文学部　宋永彬（ソンヨンビン）先生（教授）
訪問目的	１．梨花女子大学学部の日本語関係専攻についての調査
調査方法	インタビュー
調査結果	【日本にかかわるコース概要・開講科目について】 梨花女子大学では学部レベルでは日本語学科は設置されていないが、他学科の学生が「連携専攻」（ダブルディグリー）で学位を取ることができる。専攻は日本語と日本文化（文学、サブカルチャーなどを含む)。卒業単位の半分ほど日本語関係の科目を履修する。 【上記のコース・科目にかかわる教員について】 日本人教員は 3 名（専門は、日本語教育、文法、語彙文体）公募による 【上記のコース・科目を履修した卒業生の進路について】 就職率は高い。一般企業の他、教員、日本企業なども。 【まとめ】 学部レベルでの学科はないと聞いていたので、日程を調節しておらず、十分なインタビューができなかった。実際には外国語としての履修を含め、日本語、日本関係の科目が多く設置されており、日本語、日本学への関心は高いようである。改めてインタビューを行いたい。 人文学部の上にある大学院にも「総合文化」の中で日本学関係の研究を行う学生もいるということである。

宋永彬先生、坂本、韓美卿先生（韓国外大)、野本

国際日本研究センター　海外大学・機関　調査表

訪問先	ソウル大学校
調査日時	2014 年 11 月 24 日（月）
調査対象機関・学科・個人名	人文大学アジア言語文明学部日本言語文明専攻 尹相仁先生（教授）（近現代比較文学）
訪問目的	１．学部日本学関係学科、専攻についての事情調査
調査方法	項目に従ったインタビュー、写真
調査結果	【日本にかかわるコース概要・開講科目について】 学部の中の 17 番目の専攻として 2013 年発足 現在 2 年次生が在籍（13 名程度）している 大学院設置の計画もある 日本語、日本学専攻として初めての設置 【上記のコースの運営・科目開講にかかる問題・努力】 1 年次は日本語集中、2 年次は高級日本語（昭和初期の文献など） 3 年次から専門（文学・思想・古典文学・芸術など） 外国語高校の出身者が多く、日本語のレベルが高い 実用的な日本語と言うより、読解、文章表現能力を重視 今後科目を増やしていく予定 【上記のコース・科目にかかわる教員について】 専任 2 名　1 名は日本人（中世文学） 【まとめ】 日本語関係専攻は新設であるが、日韓関係悪化の影響はそれほど感じない。 日本に対する関心や需要は一定数あり、学生も意欲的である。

尹相仁先生

国際日本研究センター　海外大学・機関　調査表

訪問先	中央大学校
調査日時	2014 年 11 月 24 日
調査対象機関・学科・個人名	任榮哲（イム・ヨンチョル）先生（教授）
訪問目的	１．表敬訪問（本センタージャーナル国際編集顧問） ２．ジャーナル国際編集顧問として今後の見通しなどについて
調査方法	懇談
調査結果	ジャーナル国際編集顧問の後任について懇談した。

任榮哲先生

国際日本研究センター　海外大学・機関　調査

訪問先	韓国外国語大学校外国語大学
調査日時	2014 年 11 月 25 日（火）
調査対象機関・学科・個人名	金東奎（キムドンギュ）先生（教授）、金鍾徳（キムジョンドク）先生（教授・本センタージャーナル国際編集顧問）
訪問目的	１．韓国外国語大学校日本語学部の最近の状況についての事情調査
調査方法	項目に従ったインタビュー、写真
調査結果	前回調査（2011）からの変更点について 2014 年から組織の改編があった。従来は日本語大学日本学部の専攻として言語、文学、地域学があり、学生は 2 年次にその中から専攻を選んでいたが、改編の結果、「日本語言語文化学部（定員 50，来年から 48)」と「融合日本地域学部（定員 35)」に分かれ、学生は入学時からどちらかの専攻を選ぶことになった。 別キャンパスに韓日翻訳通訳学部（定員 40 名）があり、大学院も持っている。 なお、外国語関係の学部としては、英語、中国語、日本語の他は、東洋語、西洋語の各大学に分かれている。その他、理科系、社会科学系の学部もあり、総合大学である。 【上記のコースの運営・科目開講にかかる問題・努力】 学生の日本語レベルは高いが、入学時に外国語高校などから入学の既修者とゼロ初級の学生、どちらも入ってくるので、授業設定が難しい。

大学本部

金鍾徳先生、野本、坂本、韓美卿先生

上記 5 件、調査担当者：　野本京子、坂本惠